



各地域で養蜂指導を行っています

7月末から8月上旬にかけて、モンゴル養蜂家協会最高評議会と協力し、ウブスハンガイ県とフスグル県で、養蜂家向けの研修を実施しました。ウブスハンガイ県の研修は、同県の養蜂家協会からの要請を受け、活動地であるフスグル県への訪問とあわせて実施しました。

研修では、ビースペース（ミツバチの育児に必要な巣枠間のスペース）の重要性や、夏と秋の飼育管理について講義と実習を行いました。ウブスハンガイ県では3つのソム（郡）を訪問し、計12名の養蜂家が参加、フスグル県では5つのソムを訪問し、計46名の養蜂家が参加しました。

また、9月下旬にはボルガン県を訪問し、同県職業訓練専門学校の教員に越冬前の蜂群管理を指導しました。同校では昨年4月に養蜂コースが開設され、プロジェクトではカリキュラム改訂に関する協議や蜂群管理の指導を行ってきました。今回の訪問では、越冬に向けて蜂群がよく管理されており、良好な状態であることが確認できました。

プロジェクトでは、モンゴルの養蜂振興のための手引書の作成に取り組んでいます。手引書は、各地域での指導から得られたフィードバックを反映させて改訂を重ね、最終化していきます。



（左）フスグル県での実地研修。
（右）「ビースペース定規」で巣枠間のサイズを確認。



（左）ボルガン県職業訓練専門学校での飼育指導
（右）越冬庫の準備

獣医による生産工程管理の促進に向けて

BeeDep では、蜂蜜の生産工程管理に獣医が関与することで、養蜂の病虫害管理や蜂蜜の品質を確保する取り組みを進めています。この方式は、昨年4月に獣医庁から発令された「養蜂業における衛生管理及び獣医業務のための一般指針」（養蜂業務指針）でも導入されており、プロジェクトとしても、本指針の下で養蜂の生産工程管理が全国的に広がるよう、養蜂家と獣医の契約を推進しています。（本指針については前号でも詳しくご紹介しています。）

9月上旬には、ダルハンオール県のオルホン、シャリングル、ダルハンの各ソムで、獣医向けに養蜂の実地研修を行ったほか、養蜂家に対し、獣医との契約促進について必要性やメリットを紹介しました。

獣医向けの指導については、JICA農牧業バリューチェーンマスタープランプロジェクト（MONMAP）ハチミツ加工流通改善パイロット活動とも連携して取り組んでおり、MONMAPがセレンゲ県で実施した獣医研修にも、プロジェクトとして協力しました。



ダルハンソムでの獣医研修

